

第4回世界水フォーラム（メキシコシティ）開催報告

Kazuo Yoshiki
 (有) 環境情報 編集長 吉 識 和 男

メキシコシティに関係者が集い、第4回世界水フォーラムが3月16日から22日の7日間にわたって開催された。約140カ国から1万9千人が参加、日本からは、皇太子殿下、橋本龍太郎元総理、江崎国土交通副大臣、江田環境副大臣をはじめ、関係省庁、研究機関、企業から300人以上の参加があった。

地球規模で深刻化しつつある水資源問題を解決するため、1996年に世界的な水政策のシンクタンクとしてWWC（世界水会議）が設立され、同フォーラムはWWCが水問題を討議するために3年ごとに開催している。

1997年のモロッコのあと、オランダ、日本と開かれ、メキシコは第4回目の開催。16日に開会式、代表者による円卓会議があり、翌17日から「成長と発展のための水」「総合的水資源管理」「すべての人のための水供給と衛生」「食料と環境のための水管理」「危機管理」の5つの枠組みテーマと「地球の水イニシアティブに対する資金調達のための新しいモデル」「制度開発と政治的プロセス」など5つの横断的課題のもとに、150のテーマセッションで行われた。

16日の会議で、国連「水と衛生に関する諮問委員会」議長として挨拶した橋本龍太郎氏は、水資源、水供給と衛生への行動計画「ユア・アクション、アワ・アクション」を示すとともに、「国連水大賞」「国連衛生賞」の新設、「国連衛生会議」の開催を提唱。21日のアジア太平洋閣僚会議では「アジア太平洋水フォーラム構想」が浮上し、橋本会長が閣僚級会議でその経緯や水事情について説明するとともに、「同フォーラムを推進するには、アジア・太平洋地域だけでなく、他の地域との経験の共有を図ることが大事」と訴えた。各国の来賓からも対話の重要性とともに自然災害などへの危機管理分野、複雑な水問題は是正の後押しになるとの賛同の挨拶があり、同フォーラムの設立が宣

言された。

前回、名誉総裁を務められた皇太子殿下は、17日に「江戸と水運」をテーマに基調講演された。殿下は、留学されたイギリスのオックスフォード大学で18世紀のテムズ川の水運について研究されていたが、講演の中でテムズ川の話为例に挙げ、イギリスの河川と閘門についてお話された。また、日本の江戸郊外の耕地開発、特に埼玉県の見沼代用水路や見沼通船堀を事例に、水運の発達や上水道、循環型社会について講演された。このあと殿下は、日本水フォーラムの橋本龍太郎会長の案内でエキスポ会場を熱心に見て回られた。

会期中、参加者の関心が高かった「地方自治体の水関連資金へのアクセス強化・農業用水向けの資金調達」をテーマにしたグリア・パネル（アンヘン・グリア議長）の分科会では、「Hashimoto Report」とタスクフォースの議論のつながりについて言及され、議長からタスクフォースの継続が発表されると、会場から歓声が上がっていた。生活改善のための「グリーンウォーター」（一般的な水資源）と「ブルーウォーター」（土壌等に一旦蓄えられた後に蒸発）分科会では、国際的に十分認知されていないこの概念が紹介され、グリーンウォーターの効率を高めていくことが今後の重要な問題とした。

フォーラムと並行し、同じ会場でエキスポフェアが開かれた。世界の水の事業者や公的機関、国際団体などがその活動や技術を紹介する出展コーナーが並び、関心を集めた。日本パビリオンは約700平方メートルの面積を使い、関係企業や関係省庁、財団などが出展。海外関係者が出展の前で足を止め熱心に質問したり、情報の交換や人的交流を楽しんでいた姿が目についた。次回、第5回世界水フォーラムは2009年、トルコで開催される。